

## Background

モノづくり改革を推進していく中で、トップの思いが現場に伝わらない、現場の改善が経営成果につながらない、ということをよく耳にします。これらは、「改革の総合目標と現場リーダーの目標が整合していない」「目標だけ展開し、改善活動は現場リーダー任せになっている」「現場リーダーの成功体験を、ミドルマネージャーが支援できていない」などが原因と考えられます。

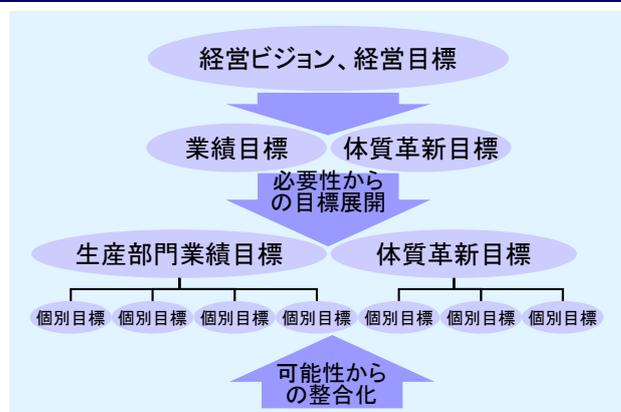
また、最近のモノづくり実態調査では、「ミドルマネージャーの改革力」が人材育成において最重視されており、モノづくり改革の重要課題となっています。

トップの思いを実現するマネジメントシステムを構築し、その運用をとおして「ミドルマネージャー」、「現場リーダー」の改革力を醸成し、結果を確実に経営成果としてつみとれること、これらがモノづくり改革の鍵となります。

## Viewpoint

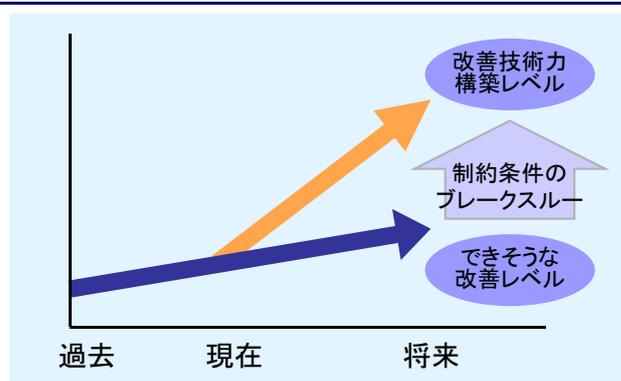
### 戦略的な目標設定：トップの思いの具体化

ビジョンや目標を整理し、達成すべき目標（トップの思い）を「業績目標：財務的目標、数値目標（QCDほか）」「体質革新目標：企業の競争能力（コアコンピタンス）を作り上げる目標」の2つに分類してトップダウンで設定します。生産部門の目標設定では、手を打ちつくした感がミドルマネージャーにあり、経営目標と乖離した目標設定になっている場合があります。JMACでは、各職場の改革可能性を分析、検討した上で、経営目標をブレイクダウンし、現場リーダーの目標と整合化させます。



### さらなる改革のための、制約条件ブレイクスルー

現場からは「もうこれ以上の改善は難しいです」という声をよく聞きます。実はここからが、改善技術力を向上する上で、大変重要なステップになります。個別目標ごとに改革の視点を明確にし、視点別の「これ以上の改革が進められない制約条件」を解き明かしていきます。制約条件が論理的に明確になることで、さらなる改革テーマを設定することができます。視点の提供、制約条件の理論化、さらなる改革テーマの発掘、これらの推進をミドルマネージャー現場リーダーを巻き込みながらご支援していきます。

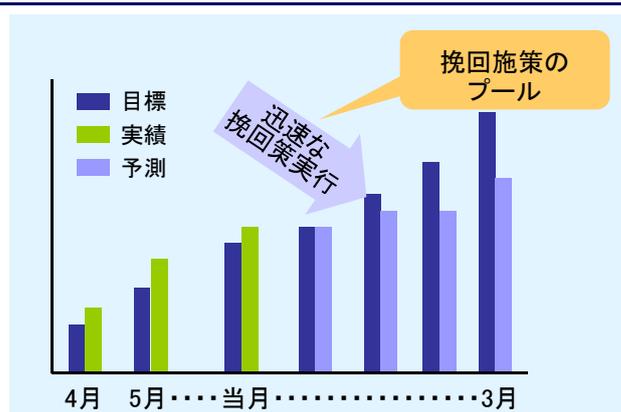


### 将来の効果実績予測をとおして、迅速な挽回策実行

目標必達における実績管理で重要な事は、確実な挽回策を実行することです。そのためには、早い段階で目標未達を予測する仕組みが必要になります。

当月までの実績管理のみならず、将来の効果実績予測を行い、早い段階での挽回策検討、実行の仕組みづくりをご支援します。

また、挽回策検討のための施策プールデータベース構築のご支援もいたします。



## Our Practice

住宅機器 A社	背景: 低価格化による収益構造の悪化 テーマ: 工場コスト10%削減	・成果: 生産人員35%削減 ・成果: 購入品コスト15%削減
化学 B社	背景: 競争激化による収益構造の悪化 テーマ: 生・販のマネジメント革新により収益目標必達	・成果: 生産人員20%削減 ・成果: 購入品コスト10%削減

## Service Menu

JMACではお客様のご希望にあわせて、以下のような目標管理推進支援をいたします。

### ◆業績目標管理に関する支援プログラム

- ・コストダウン目標管理
- ・品質向上目標管理
- ・在庫削減、リードタイム短縮目標管理

### ◆体質革新目標管理に関する支援プログラム

- ・技術力向上
- ・人材育成



## Consulting Step

